

尾州有楽流 教本

【基礎編】

V お稽古場での流れ

① 持ち物・服装

お稽古場に持参する持ち物は、基礎編1にある通り、懐紙入れに懐紙・帛紗・扇子・菓子切、白靴下か白足袋、です。

服装は基礎編2にある通り、できることなら着物で、そうでなければ襟など付いているある程度の品格のある洋服で。

② お稽古場に着いたら

お稽古場に着いたら、まず寄付（よりつき・待合室）になっている部屋に進み、そこでお稽古用に身支度を整えます。具体的には、コート等の外套を脱ぎ、持参の白靴下や白足袋に履き替え、流し場や手水鉢などがあれば手を洗います。

③ 入室とお稽古始めの挨拶

お稽古場和室の出入口の襖（障子）前に座って、扇子を居前（自分の膝の真ん前）に置き、基礎編4にある通りの所作で襖を開けます。手を下について、室内にいる師匠に対して「先生、ご機嫌宜しゅうございます。本日もお稽古お願い致します」などと挨拶して一礼します。師匠から「〇〇さんもお機嫌よう、では〇〇をしてください」などと応答があります。たいてい、「お点前をしてください」か「お客様をしてください」のどちらかです。

*お点前をする場合

扇子を前に置いたままで「先生、お点前のお稽古お願い致します」などと挨拶して頭を下げます。そうすると師匠から「はい、お願いします」などと応答があるので、師匠からの応答が終わったら頭を上げます。なお、稽古場によっては、師匠への挨拶に続けて、その場にいる社中（師を同じくする門弟）の人にも「お願いします」と挨拶するところもあります（以下、社中にも挨拶するお稽古場ならば、師匠に「お願い致します」と言ったら、社中にも「お願いします」と言い、師匠に「ありがとうございました」と言ったら、社中にも「ありがとうございました」といいます）。挨拶が終わったら襖を閉め、居前の扇子を持ち、水屋に行って点前の準備をします。

*お客様をする場合

これもまた扇子を前に置いたままで「先生、お客様のお稽古お願い致します」などと挨拶して頭を下げます。師匠からの応答があると頭を上げ、扇子を右手で持って握り込んで、にじって席のなかに入ります。襖を閉める必要があるなら、にじって180度回転して襖の方を向き、襖を閉め、またにじって180度回転して席中の方を向き、広間であれば立って歩いて客畳の所定の場所に進んで座り、お客様の稽古をします。

④ 役稽古の御礼の挨拶と次の役稽古の挨拶

*お点前の稽古→お客様の稽古

お点前が終わったら、またお稽古場和室の出入口の襖（障子）前に座って、扇子を居前に置き、襖を開け、「先生、お点前のお稽古ありがとうございました」などと挨拶して頭を下げます。師匠から「結構でした」などと応答があったら頭を上げます。お点前が終わったのであれば次はお客様のお稽古でしょうから、扇子を居前に置いたまま、「引き続き、お客様のお稽古お願い致します」などと挨拶・一礼し、扇子を右手で持って握り込んで、にじって席のなかに入ります。襖を閉める必要があるなら、にじって 180 度回転して襖の方を向き、襖を閉め、またにじって 180 度回転して席中の方を向き、広間であれば立って歩いて客畳の所定の場所に進んで座り、お客様の稽古をします。

*お客様の稽古→お点前の稽古

お客様の稽古をしている点前が終り、次は自分の点前の番になったら、和室内の出入口の襖（障子）前に師匠の方を向いて座ります。もう既に室内にいるので、わざわざ室外の敷居外に出る必要はありません。扇子を居前に置き、「先生、お客様のお稽古ありがとうございました」などと挨拶して頭を下げます。師匠から応答があったら頭を上げ、再度「引き続き、お点前のお稽古お願い致します」などと挨拶して頭を下げ、師匠から応答があったら頭を上げ、扇子を右手で持って握り込んで、にじって回って襖の方を向き、扇子は右横に置いて所定の方法で襖を開け、扇子を右手で持って握り込んで、にじって敷居を越え、またにじって 180 度回って席の方を向き、扇子を居前に置いて一礼し、所定の方法で襖を閉め、扇子を持って水屋行って点前の準備をします。

⑤ お稽古終りの挨拶

*お客様の稽古などをしている席のなかにいた場合

和室内の出入口の襖（障子）前に師匠の方を向いて座ります。扇子を居前に置き、「先生、本日のお稽古ありがとうございました」などと挨拶して頭を下げ、師匠から応答があったら頭を上げます。扇子を右手で持って握り込んで、にじって回って襖の方を向き、扇子は右横に置いて所定の方法で襖を開け、扇子を右手で持って握り込んで、にじって敷居を越え、またにじって 180 度回って席の方を向き、扇子を居前に置いて一礼し、所定の方法で襖を閉め、扇子を持って寄付（待合）に行き、帰り支度をして帰ります。

*お点前などをしている席の外にいた場合

和室の出入口の襖（障子）前に座って、扇子を居前に置き、襖を開け、「先生、お点前のお稽古ありがとうございました」などと挨拶して頭を下げます。師匠から「結構でした」などと応答があったら頭を上げ、扇子を居前に置いたまま、また「本日のお稽古ありがとうございました」などと挨拶して頭を下げ、師匠から応答があったら頭を上げます。所定の方法で襖を閉め、扇子を持って寄付（待合）に行き、帰り支度をして帰ります。

※ 各お稽古場での、お稽古の手順やルール、挨拶の仕方などは本当に千差万別ですので、上記はあくまでほんの一例として、参考にしてください。